



ヴィクトリアン・ゴシック様式の壮麗な建築美のセントパンクラス駅。教会や大聖堂を中心に手掛けた英国建築界の大御所ジョージ・ギルバート・スコット卿によりミッドランド鉄道のターミナル駅として1868年に開業した



ホテルの最大の見どころは、スコット卿が心血を注いで建築を手掛けた中央階段「Grand Staircase」であろう。壮麗な大階段を前にしてゲストはその圧倒的存在感に目を奪われる。ホテル館内に造られた階段としては世界屈指の美しさを誇る



夜間、ライトアップされて浮かび上がった「St. Pancras Renaissance Hotel」の全景。1876年にステーションホテル「The Midland Grand Hotel」として開業した



セントパンクラスの正面エントランス車寄せ。ホテル館内はムーア様式のアラビックな雰囲気漂う



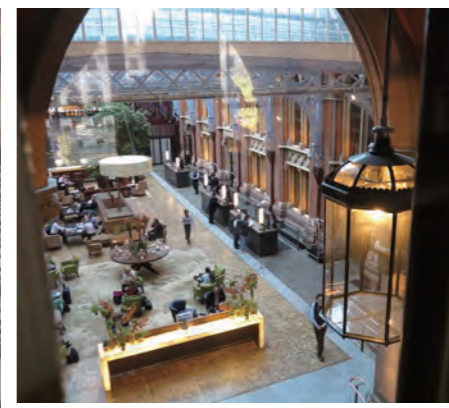
筆者 小原 康裕
ホテルジャーナリスト
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



館内渡り廊下側から俯瞰した、セントパンクラスの正面エントランス車寄せ



ムック本「世界の美しい階段」「Beautiful Staircases around the World」の表紙を飾った印象的なステアケース



館内渡り廊下側から俯瞰した、ロビーラウンジ「Hansom Lounge」



かつての駅ホーム側にあった出札口「Booking Office」



かつてビクトリア朝の上流社会の人々が馬車から降り立ったエントランスホールは、ロビーラウンジとなっている

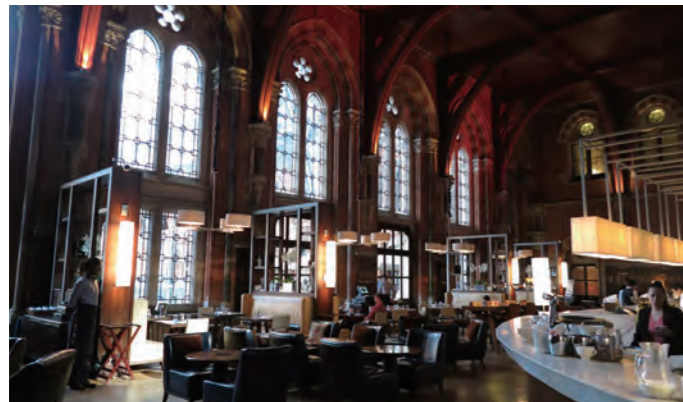
世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリアが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

St Pancras Renaissance Hotel

ヴィクトリアン・ゴシック様式の壮麗な建築美のセントパンクラス駅。教会や大聖堂を中心に手掛けた英国建築界の大御所ジョージ・ギルバート・スコット卿によりミッドランド鉄道のターミナル駅として1868年に開業した。1876年にステーションホテルとして「The Midland Grand Hotel」が開業し、セントパンクラス駅の黄金時代を迎える



メインダイニングルーム「Booking Office」。かつて駅構内で旅人の発着のドラマが繰り広げられたであろう、大時計のある「出札ホール」はレストランとなり、その名も「Booking Office」としてよみがえった



「Booking Office」の天井は比類なき高さを持ち、かつての出札ホールの面影を色濃く残す。ガラス窓側は直ぐ列車ホームに面している



The Gilbert Scott」のプライベートダイニング「Private Dining Room at The Gilbert Scott」



ジョージ・ギルバート・スコット卿の名を冠したブラッセリー料理の「The Gilbert Scott」



「The Gilbert Scott」に隣接したメインバー「The Bar at The Gilbert Scott」



最近リニューアルされた Barlow Wing に位置する「Premier King Bedroom」。約 35㎡の広さで、部屋から駅構内の列車が発着の様子が見渡せるユニークな客室だ



ロンドン St. Pancras とパリ北駅を結ぶユーロスターが頻繁に発着の様子が目の前で展開する



この「Premier King Bedroom」は、鉄道ファンにとってはたまらない客室と言える



スパ施設「St. Pancras Spa」の様子



規模は小さいがスイミングプールやジムも充実している

る。しかし、華麗でありながらもロマンティックな建築は、1936年にはすでに、時代の要求に合わないものとして閉館されてしまう。ホテルはクローズした後、鉄道関連のオフィスとして使用されていたが、何度も買収・改装案が出ては、あまりの巨額なコストに話はずべて立ち消えとなり、やがて廃墟のような姿になって行く。

幾多の変遷を経て、セントパンクラス駅はユーロスターのロンドン側の発着駅となって、再び脚光を浴び見事に復活を果たすことになる。ホテルはマリオット・グループにより買収され、徹底的に修復された後に、セントパンクラス・ルネッサンスホテル「St. Pancras Renaissance Hotel」として華麗なる大変身を遂げ、2011年5月にグランドオープンした。かつてビクトリア朝の上流社会の人々が馬車から降り立ったエントランスホールは、ロビーラウンジ「Hansom Lounge」となりアフタヌーンティーを楽しむゲストでにぎわっている。

セントパンクラスは、38室のスイートを含め全245室を擁する大型のホテルである。今回は「Premier King Bedroom」を紹介したい。部屋から駅構内の列車が発着の様子が見渡せるユニークで人気の客室だ。ホテルの最大の見どころは、スコット卿が心血を注いで建築を手掛けた中央階段「Grand Staircase」であろう。壮麗な大階段を前にしてゲストはその圧倒的存在感に目を奪われる。また、駅構内で旅人の発着のドラマが繰り広げられたであろう出札ホールはレストランとなり、その名も「Booking Office」としてよみがえった。その他、ブラッセリー料理の「The Gilbert Scott」や駅ホーム際にあるカジュアルレストラン「MI+ME」などがある。スパ施設「St. Pancras Spa」は、規模は小さいがスイミングプールやジムも充実している。セントパンクラスの館内はムーア様式のアラビックな雰囲気漂う。その不思議な空間の先に大階段「Grand Staircase」が位置する。ムック本「世界の美しい階段」「Beautiful Staircases around the World」の表紙を飾った印象的なステアケースで、ホテル館内に造られた階段としては世界屈指の美しさを誇る。ここは近代建築史と鉄道ファンにはたまらないホテルと言える。